

市民と市長の対話集会

「つながるまち、小郡」を語ろう！

平成29年7月31日（月）
午後7時～午後8時30分
大原校区公民館

意見交換議事録

質問者A： 加地市長のマニフェストを聞いてワクワクする小郡市が見えてきたような気がする。ぜひ、早急に実現をしてほしい。要望だが、小学校のグラウンドを芝生化してほしい。緊縮予算の中で大変なことはわかるが、小学校のグラウンドを芝生で緑いっぱいによって、現在の教育問題の大部分は解決することができると思う。まず情緒が安定する。それから思いっきり体を動かすことによって、夜しっかり眠れる、朝早く起きる、非常に健康にもつながる。あと手入れが大変だという話をよく聞くが、それはシニアの人達の力を借りる、あるいは小郡市老人クラブ連合会と連携して一緒にやるとか、そういう知恵を使えば、市民の皆さんは絶対協力してくれると思う。難しい問題はたくさんあると思うが、未来の小郡を支える人間づくりのために実現をよろしくお願いしたい。

清武教育長： 学校芝生化の問題は、これまでも小郡市の学校で提案があり、これまでもPTAや学校と話をしてきたが、結果的にはなかなか前に進まない状況がある。それは、運動場を社会教育施設としても使っている部分があり、少年野球などいろいろな運動の団体が使っている。他の先進地も見に行ってきたが、せっかく植えた芝生がグラウンドをスパイクで走り回るために剥げてしまい、管理がなかなかうまくいかない状況がある。どこか違う場所に運動の場所をきちんと確保できればよいが、その辺の問題がでてきて今のところうまくできていない現状がある。また、維持管理の問題もあり、今日のような暑いときに枯らさないようにどう維持管理をしていくか、今日ご提案があったように地域の方のお力があると非常にありがたい。今日ご提案があったので、引き続きこの点に関しては教育委員会としては検討していきたい。

加地市長： 今のご説明が本筋で、あとは、やるために地域としてそれを本当に熱望しているのか、そしてそれをどう位置付けているのか、まさに地域から皆さんで考えていただきたい。今のような課題を地域で解決できるのかどうか考えていただくことによって、維持管理も自分たちでここまでできると、逆に提案していただく、そういう動きにしていた

だきたい。それに対し、それでは市役所としてできる部分はここまでとここまでかなというふうに、一緒に作り上げていく。まさに、それが共働ということだと思うので、ぜひ一緒に考えさせていただきたい。

質問者B： 私は市民が健康で安心の道路を作ってほしい。中央1区の小郡自衛隊の東門の前に焼き鳥屋があった。今は休業したが、その敷地に草がすごく生い茂っているが、誰も何も言わない。ちょうどカーブになっており、草が邪魔で見通せない。そのうち誰か怪我しないか心配で、自主的に草を取り除いていたが追いつかない。その小さな敷地に草が生えないようにしてもらっただけで、怪我や事故は起きないのではないかと思うので、お願いしたい。

肥山都市建設部長： そこは、大原中学校前からダイレックス向かう県道だと思う。片側に歩道が付いていて、片側は歩道がないという状況で、そこから一般の方の小さな敷地から草が生えて出ているということだと思う。個人の敷地に対して市が工事をすることは難しいので、そういう状況のところには、担当部署が建設管理課になるが、土地の所有者にお願いをするとか、本当に必要であれば、市の職員で対応したい。

質問者C： 市長の話では、これからはシニアの時代だ、高齢者の時代だということだが、市は小郡市老人クラブ連合会を持っているが、私見であるが、今まで老人クラブの管轄部署が市役所のどこであって、どういう指導をしているのか、あまり感じられない。今後、老人クラブの活動について、どの部署でどう対応するかという考えがあれば、お聞きしたい。

井手保健福祉部長： 老人クラブの所管については、保健福祉部の介護保険課で対応している。老人クラブ連合会については、現在加入している老人クラブが少しずつ減ってきているという課題がある。この課題については、市としてもこれから高齢者が増えていく中で老人クラブはさらに盛んになっていただきたいが、一方で連合会から脱退される老人クラブが増えている。そういう課題があるので、現在、老人クラブ連合会と市と一緒に、なぜ今老人クラブが減っているのかという課題と今後の方向性について検討をしているところなので、もう暫く時間をいただきたい。

加地市長： 少し補足すると、連合会に入ると、それぞれの地域地域の老人クラブで完結していた作業のほかにも、連合会の役割の中での出事（でごと）が多くなって、なかなかそういうところまでお付き合いしていくのが大変だという正直な声もいただいている。そういう負担を軽くできないかとか、うまく皆さんがゆるやかにつながることで、もっと活発に活動ができないかということ課題と考えると、今、担当が一生懸命話し合いをしてい

る。近くそのお答えが出せるのではないかと思う。今日は改めてその問題認識を共有させていただきたい。

質問者D： 自分は老人クラブの事務局長を14年やった。最初は64クラブあったが、年々減っていく。世話人になる人がいない。人にはさせるが自分はしない。そういった人が非常に多い。市長マニフェストの中に高齢者という言葉はでてくるが、老人クラブの「ろ」の字も出てきていない。平安さんのところでは、老人クラブというのが1字だけ出ていた。それくらい、老人クラブというものに対する意識が全市民の中にも少ないのではないか。人には世話をさせる、自分はしない。これでよいのか。子育ての問題やいろいろな地域の問題があるが、その大先輩である自分たちがリードしていかなくてはいかんという気持ちがあれば、世話できると思う。そのへんは行政ももっと積極的に、市議員ともタイアップして地域の連帯感を深めてもらいたい。私も80いくつになっているが、まだまだ元気で老人福祉に頑張っている。こうやって回りを見渡すと、かなり高齢者の方も多いので、もう少し老人クラブのことも言葉に出してやっていただきたいと思います。

加地市長： 改めてしっかり受け止めさせていただきたい。ただ、逆に言うと老人クラブの「老人」という言葉を私も使うことをためらってしまうところがあるが、皆さんいつまでも現役で、そういう意味では、言い訳ではなく、いつまでも活動していただき、団体名も変えていくくらいの気持ちがないと、大きな変化はでてこないのではないかと考えている。

質問者E： 特に教育委員会にお願いしたい。さきほど市長から子どもが主役のという話を聞いたが、児童が主役の教育関係を整備していただきたい。その中で、日本の伝統文化、それから先人が築いた豊かな情緒を大切にしてもらいたい。私は平成17年から民生児童委員をしているので、学校にお世話になっている。特に大原小学校にお世話になっている。教育環境といえば、設備もさることながら、まずは環境である。

大原小学校は、耐震化、空調の設備、給食センター、職員室の移動、駐車場の整備などをやっているが、昭和48年に大原小学校は設立され、創立記念庭園があった。すごくきれいな松があった。そして南側には40年来植樹された桜があった。桜とか松は日本の文化の最たるものであるが、これを潔く伐採して、駐車場にした。しかも職員優先の駐車場になった。今、温暖化問題もあるのに職員に自動車通勤を奨励して、グローバル社会、ボーダレス社会だから競争に勝たないと日本は生きていけないということだろうが、そんなものではない。もっと日本の文化を大切にしないといけない。桜というのは日本の象徴。40年来の桜を何で伐採するか。そして駐車場を設置する価値があるか。こんな考えでは駄目。教育委員会は駄目。

市長が言っているように児童が主役で、職員が主役ではない。市役所の課長職の人か

ら、市も民間方式を取り入れるという言葉があった。民間方式を取り入れるような役所は駄目。公務員は全体の奉仕者であって、公共の利益のために勤務してもらわないと困る。もう一回反省して、もう取り返しはきかないが、他の学校ではそんなことをしてもらいたくない。

清武教育長： 大原小学校の玄関前の庭園の松と桜の件については、地域の方から大事に思っていたというのを再度認識させていただいた。また、そういう思いをさせてしまったということについては、大変申し訳なく思っている。子どもが主役というのは私たちも考えていて、将来を担うのは子ども、将来の小郡を作るのも子どもである。教育はすぐに効果はでないが、これからの将来を担う子どもをどのように育てられるかが一番大事であることについては、共通の認識であると思っている。

その中で今小郡で力を入れていることが、郷土教育ということ。国際化がどんなに進もうと、自分たちが生まれ育った地域を理解して、そこにある伝統文化をきちんと理解して、それを足場にしながら世界へ巣立っていく。小郡は皆さんご存知のように歴史的な遺産やたくさんの遺跡も残っている。こういったものをプログラム化して、各学校で取り組みを進めたり、日本の伝統文化である将棋や能とかお謡いといったものを子ども達が学ぶ機会を与えるということを大事にし、小郡で生まれ育って良かったということを子ども達が実感できるような教育をしていきたいと思っている。ただ、環境の面での配慮が足りないということなので、これは率直に受け止めさせていただきながら、今後の行政の中に活かしていきたい。

加地市長： 一点、補足だが、私が就任してすぐに投げかけられた問題の一つとして、三國小学校の学童保育の施設が足りないという問題があった。その時に小学校の裏門に庭木を改修してプレハブを建てるという話があった。しかし、よくよく聞いてみるとそこに植えてあった松が周年事業で植えられた松であり、それが校歌にも歌われている松であるということが分かった。それをどうしようかということになって、他に植え替える場所がないか等を含め、今、再検討していただいている。今のようなお話を伺うと植物とかであってもやはり本当の意味で心をどう向けるかというところがいつも問われていると思う。学童保育がないというのは緊急性のある問題であるが、そういう難しい選択の中で今どう選ぶかということについて、やはり皆さんときっちり頭を突き合わせて話し合っていていかなければならない、と改めて今日の話の中で気づかされた。

質問者 F： さきほどの市長のマニフェストの説明の中で、新体育館の設立についてあったが、その場所については、公の場で特定してお披露目することはできないのか。私としては、地図を持ってきているが、この間高校野球の準決勝からあった野球場。それから陸上競技場、テニスコート、そして今の多目的広場の場所に体育館を持ってくれば良いと思

う。4点セットができあがり、一大体育施設ができ小都市の目玉にもなる。多目的広場を別の場所に移し新体育館を作ったらどうか。

それともう一つは、味坂インターチェンジであるが、あれは何がスマートなのか、説明をお願いしたい。

加地市長： まず1点目の新体育館の場所については、まだそこに至っていないというのが正直なところ。これからあるべきサイズ、どのような場所に作ったら良いかということについては、いろいろな方のご意見を聞いて最終的に決めたい。今はまさに白紙という状態。今の質問者のご提案については、ひとつまた勉強させていただきたい。もっともなご意見と思っている。

肥山都市建設部長： スマートインターチェンジというのは、簡単に言うと普通のインターチェンジとは違ってE T Cを搭載した車専用のインターチェンジで、本線に直接乗り入れる場合やサービスエリアから出入りできるようにするもの。これを大まかにスマートインターチェンジといい、人がいて、その出入口が何か所もある普通の大きなインターチェンジとは区別されている。

質問者G： 今の件で確認だが、スマートインターチェンジは須恵にあるものと一緒ではないのか。あそこは、大型車は乗り入れ、乗り降りできないのではないのか。

肥山都市建設部長： 須恵インターチェンジについては大型車の乗り入れはできないということだが、仮称味坂スマートインターチェンジについては、一応大型車も乗り入れできるように考えている。先ほどのスマートインターチェンジと普通のインターチェンジの違いは、大型車が入れるかどうかではなくて、E T Cの機械を搭載した車の出入りということになる。

質問者G： それなら結構。せつかく産業のための話であるので、大型車が出入りできる必要があると思ったのでお尋ねした。

質問者H： 防災行政無線については、私も区長をしていたので、その後の成り行きを注視していたが、昨年11月23日に大保区公民館で熊本地震による防災対策ということについて話があった。その中で防災行政無線についても話があったが、実際、防災行政無線の放送が各市民にどのように伝わっているのかということに非常に疑問を持っている。私がその席上で市の担当者に尋ねたところ、「聞こえる人に聞こえれば良い」、「1割か2割でも聞こえていれば良い」というような旨の答弁をされた。これに対しては質問状を出している。私が区に対して区長から質問状を出すようお願いしていたが、出さないで個人

名で出して、その回答は区長に報告してくれということで出していたが、その返事が1ヶ月後にも来ないから直接行って回答をもらった。私が言ったのは、何を言っているかわからないから、向きを変えるか、ボリュームを上げるか、そういった対策ができないかといったことを言っただけである。それに対して「1, 2割の人が聞こえれば良い。あとはスマートフォンとか携帯電話の端末で情報を受信する。あとは広報車でやります」と、そういったことだった。それで本当に良いのか。これは加地市長の時に設置された訳ではないが、全地区に60基付けてある。いくらくらい金がかかったのか。どのくらい恩恵にあずかっているか。私も尋ねたがほとんどの人が聞こえないという。去年の4月頃から11月頃までどういった内容の放送をしたかを出してもらったが、その中でも1, 2回位しか聞こえない。5時をお知らせする音楽は聞こえるが、災害の時、雨戸を全部閉めていて、雨風がブーブー鳴っているときに、そういう放送が聞こえなくて良いのか、それならそれで大きなサイレンを3回か4回鳴らせば、何かやっていると気づく、それすらわからない防災無線は付けても何にもならないと正直思っている。現在の放送がそれで良いかどうか市長の見解をお聞きしたい。

大津総務部長： 防災行政無線の件、私の方でまず答えさせていただく。その前に所管課長の対応が少しまじったと、今認識しており、まずこの点についてはお詫びを申し上げる。改めて防災行政無線のシステムについてご紹介させていただくと、まずラップ、スピーカーの角度の調整、それから音量というところの課題を今申し上げられたと思うが、これに関しては、設置をする段階において設計をしている。これはなぜかというラップの角度によってはハウリングを起こすからである。よって最低限ハウリングが起きないように、できるだけ広範囲に聞こえるように設計をさせていただいている。また場所についても民間の土地には難しい部分があるので、公共用地に、大概のところは公民館の敷地や公共の施設の敷地に設置をさせていただいている。よって、どうしても聞こえづらいという場所がでてくるのではないかと思う。あわせて、台風等で窓を閉め切っている状態では、屋内まで音が聞こえないということは止むを得ないのではないかと思っている。ただ、皆さんも、防災行政無線だけで災害情報を入手している訳ではないと思う。テレビであったり、ラジオであったり、また携帯やスマートフォンで私たちも情報発信に努めているので、緊急な災害、避難の呼びかけ等々については、他の用途を使って危険に関する情報を流しているので、どうか防災行政無線だけにとどまらずに、いろいろ多角的な情報を入手していただき、まずは身の安全を図っていただきたい。

質問者H： もう一つ付け加えさせていただきたいが、提出してもらった放送内容の資料の中で気になったのが、「ウエスタンリーグ中止のお知らせ」というものまで全域的に放送されているが、こういうものはよいのだろうかと思う。

大津総務部長： その部分についてもお答えさせていただきたい。通常、災害が起こらないような場面については、広報の手段として、そのような内容の広報を展開させていただくということで、これについては内部の要綱に定め、それに準じたところで運用させていただいている。あくまで公共及び公共に準じる用途の中で使用させていただいているということでご紹介させていただく。

加地市長： 防災行政無線については、他の会場でも同様の質問をいただいている。多分あちこちでいただくということは、同じような形で問題が認識されている方が多いのではないかと思うので、改めてこの回答を含めて、皆さんにこの無線のあり方、課題についても正直に投げかけをさせていただきたい。

質問者 I： 市長のマニフェストの最後に犬猫殺処分ゼロのまちを目指すということが書いてあった。今までの自然災害などの大変な話の中で大変申し訳ないが、やはり地球環境と一緒に犬猫の命を守っていくということも非常に大事なことだと思うので、ぜひそれを実現していただくために、早急ではないが、頭の中に入れておいていただければと思う。

黒岩環境経済部長： 特に捨て犬、野良猫という取扱いで殺処分されている。特に犬の関係については、市としては、犬の飼い方教室とか里親とかいろいろな制度を活用して、しっかり自分の家族のような形でペットを飼っていただくように行政としてもお願いをしている。

質問者 J： 市長マニフェストに提示されたことが全部できれば素晴らしい小郡になると思う反面、私は必ずしもマニフェストにこだわる必要はないと思っている。小郡市の現状は一言でいえば日本の縮図、高齢化社会と言ってもよいと思う。先般、区で自主防災組織の集まりがあったが、この時に出た意見は、うちはもう年寄りばかりで、隣組が成り立っていかない、避難しろと呼びかけられても自分の体が動かせないというような人がかなりいた。そういう高齢者社会に入っている実情を踏まえて今後の市の運営なり、行政のあり方をもう1回考え直していただければと思う。

それと、小郡は非常に小さな都市で、先ほど市長が言われたように山口の小郡と間違われると、私も実感したことがあるが、そういう目立たない市だと思っている。私はこれもよいのではないかと思う。身の丈にあった地味でもよいからみんなが協調していけるようなやさしい町であってほしいと願っている。必ずしも大きな企業を誘致したりとか、そういうことは必要ないと思っている。財政が厳しくなっても身の丈にあった小郡市を創っていただければと願っている。

加地市長： 一言だけお答えしたい。皆さんが身の丈に合い、住みやすい町という中であ

えてこの「つながるまち」というのを作ったのは、今までまちの中でも高齢化されたところもあれば子育ての問題を残している地域もある。川の右岸地域があり左岸地域があり、新住民の地域があり、農村部の地域もある。多様化もよい面もあるが、ある面では、ひとつひとつのつながりがないとも思っている。もちろん派手で賑やかなまちをつくりたいという部分も魅力で、ついそちらの方に気持ちも行ってしまいが、ご指摘いただいたように本当に皆さんがやさしくつながれるまち、高齢化の方々が孤立しないようにいろんな意味でまちがひとつの方向に向かうような方向でしっかりと取り組んでいきたい。

質問者K： 具体的な話になるが、障がい者の地域活動支援センターである「じょいわーく」が閉鎖されるという話を聞いた。それが本当かどうかを知りたい。障がい者福祉計画の中に数値目標も定められていると思うが、なぜそうなっていったのかということをお聞きしたい。

それと、私たちも18年間「おもちゃ図書館」といって子どもから高齢者までつながる居場所づくりをしてきている。障がいがあってもなくても、世の中に出ていく時期に近づいてきたときに、「じょいわーく」のようないろいろな活動ができるⅢ型がなぜ縮小ではなく廃止なのか。多分、利用している障がい者の高齢化もあると思うが、まだ児童にしても発達障がいということで診断を受けている子どもたちがたくさんいる。その子たちが大きくなっていく上で、いろいろな形の活動の場があるのではないかと思っている。先ほど市長が言われたように、本当に障がいがあってもなくても、子どもも高齢者もみんな仲良く声をかけていけるようなまちにしてほしいと思って、今回足を運ばせてもらった。

井手保健福祉部長： 「じょいわーく」についてのお尋ねであるが、現在、一品香の横にあるが、建物が道路の拡張にかかるため、建物をどちらかに移動しなければならないという状況になっている。そうした中で将来的にあの場所でというのは難しいので、その後のあり方について現在、検討を行っている。当然、（現在行っている地域活動支援センターⅢ型事業を）廃止してなくすというようなことは全くない。

それから障がい者にとっても高齢者にとっても優しいまちについては、これまでも取り組んできたところであるが、今後も高齢化を迎える中で更に取り組みを進めていきたいと考えている。